

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(家庭)
／速水 多佳子

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

テーマ:家庭科における情報活用能力の向上に着目した実証的研究

計画:教育の情報化が推進されており、社会の様々な変化に主体的に対応するために、情報活用能力の育成が必要である。家庭科は、生活に必要な衣、食、住などに関する知識と技術を獲得して、実際に活用する能力の育成を目標としている。そこで、まず家庭科で身に付けさせたい情報活用能力について整理をする。そして、家庭科における情報活用能力の育成を目指した学習活動の例を示すとともに、授業案を作成し、学校教育現場で実践・検証を行う。

2. 点検・評価

「教育の情報化に対応した中・高等学校の家庭科住居領域の授業開発に関する実証的研究」をテーマとして、研究計画調書を提出した。生徒の情報活用能力をはぐむとともに、教員のICT活用によって、教育効果の高まりが期待できる授業開発についての研究である。

平成25年4月に交付内定の通知をもらった。これから3年間、研究成果が出るように努力していきたい。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

- ・教員志望の本学学部生に、本学の大学院への進学を勧める。
- ・大学訪問を行い、本学の大学院制度についての広報活動を行う。
- ・高等学校教員に対して、本学の大学院制度についての広報活動を行い、教員志望の高校生または卒業生へ進学を勧めよう。

2. 点検・評価

- ・広報活動として、6月と10月に大学訪問を1校ずつ行った。2校とも卒業生が本学の大学院に在籍しているので、本人の状況等を確認した上で、有意義な学生生活を送っている様子を報告し、本学の良さをアピールした。
- ・本学の学部4年生で、高等学校の教員を志望している学生に対して、教科の専門知識をさらに身に付ける必要性を説いて進学を勧めた結果、1名の学生が進学することとなった。
- ・教育支援講師・アドバイザーとして、高等学校を訪問した際に、教員に対して広報活動を行った。教員自身だけではなく、教員の家族や高校の卒業生の大学卒業後の進路先としても興味を示された。
- ・徳島県の高専家庭科教員を対象とした研修会で、本学の大学院の紹介を行った。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ・所属している家庭コースだけでなく、他コースの学生に対しても、進路や生活等に関する相談に応じる。
- ・教員採用試験対策として、学生が自主的に行っている勉強会にて継続的に指導助言を行う。
- ・学生が主体的に取り組めるように、実習や演習、模擬授業等を取り入れた授業を実施する。
- ・担当する卒論生、修論生の指導を丁寧に行う。

2. 点検・評価

- ・教員採用試験対策として、学部生や長期履修学生、院生が自主的に集まって行っている勉強会で、集団や個人面接の指導を半年にわたって継続的に行った。また、教科専門の勉強会を毎週開き、希望する学生には個別に小論文指導や面接指導を繰り返し行った。兵庫県、神戸市、徳島県、奈良県、神奈川県、愛知県、広島県、愛媛県、岡山県、川崎市、福岡市などに合格することができた。
- ・教員採用試験終了後は、合格者に、初任者としての心構え等を指導した。不合格であった学生に対しては、来年度に向けた指導を行った。
- ・担任している2年生の家庭コースの学生はもちろんのこと、他コースの学生も含めて広く、進路や人間関係、生活面などに関する相談に応じた。
- ・担当する卒論生、修論生の論文指導、進路指導を丁寧に行った。修論生は、学会で全国大会1報、中国・四国支部大会1報の発表を行った。また、卒論生2名は、小学校教諭として採用され、修論生1名は、中学校家庭科教諭として採用された。

II-2. 研究

1. 目標・計画

- ・学会に積極的に参加して、家庭科教育に関する研究を発表する。
- ・家庭科教育に関する研究成果をまとめ、学会誌に論文を投稿する。

2. 点検・評価

- ・日本家政学会の全国大会1報、中国・四国支部大会1報、日本家庭科教育学会の全国大会3報、四国地区大会1報、日本建築学会1報、日本教科教育学会1報の発表を行った。
- ・研究の成果をまとめ、学会誌に投稿中である。
- ・家庭科教育に関する本の分担執筆を依頼された。平成25年4月に出版予定である。
- ・研究の成果をまとめ、鳴門教育大学研究紀要第28巻に掲載された。「家庭科教育における『命の教育』の可能性―学校における実践事例の分析から―」(2013年3月)

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- ・2年生担任、学内の各種委員会の委員として、大学の運営に貢献する。
- ・長期履修学生支援センターの一員として、学生の指導に貢献する。

2. 点検・評価

- ・長期履修学生支援センターの一員として、1年次生対象の前期支援講座・後期支援演習を担当した。
- ・長期履修学生支援センターの一員として、2年次生の主免教育実習の事前指導で、指導案の書き方や模擬授業の指導を行った。担当した5校の中学校を数回にわたって訪問し、教育実習が円滑に進められるように支援した。
- ・長期履修学生の担任している1年次生14名の学生と個人面談を行うとともに、2年次、3年次生についても、生活面や進路の相談に随時応じた。
- ・学生総合相談室の相談員、ハラスメントに関する相談員を担当した。
- ・就職支援室に依頼され、教員採用試験の面接練習の指導に参加した。本学の採用試験の合格率に大いに貢献した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ・附属小学校、附属中学校の研究会に積極的に参加する。
- ・教育支援講師・アドバイザーに登録して、地域・社会との交流・連携を積極的に行う。
- ・現場の家庭科担当教員の教育実践を支援する。

2. 点検・評価

- ・附属小学校の合同研究会(5月30日、3月6日)に参加した。また、研究発表会に向けた授業の相談に応じた。
- ・附属中学校の第56回教育研究発表会(6月1日)に参加した。
- ・附属中学校2年生対象の総合的な学習の時間において、授業を2時間担当した。
- ・教育支援講師・アドバイザーを3回担当した。(鳴門市のホームヘルパー対象の研修会の講師、徳島県ものづくりコンテストの審査員、高等学校の進路に関する授業)
- ・徳島県立総合教育センターにて、高等学校家庭科教員対象の講座で講師を担当した。
- ・徳島県、兵庫県の教員からの家庭科の授業等に関する相談に随時応じた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

本年度の教員採用試験対策として、学部生、院生が自主的に集まって行っている勉強会で、集団面接の指導を17回、個人面接の指導を15回行った。私自身の教育現場での経験を生かして、学級経営、生徒指導、保護者対応、学校評価、教育法規、学校危機管理などの内容について扱った。学部生と院生とが交流できるように配慮して、教員志望のモチベーションが上がるようにし、本学の教員採用試験の合格率に大いに貢献した。また、家庭コースの中高教員志望の学生4名を対象に勉強会を週に1回定期的に行い、2名が中学校教諭、1名が高校教諭に採用され、1名は本学大学院に進学した。また、採用試験終了後は、教員としての資質向上を目指した支援を行った。